

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	旭川高齢者グループホーム ほーぷ 西棟	評価実施年月日	平成19年6月1日
評価実施構成員氏名	山中 松浦 村井 日下 水野 平井		
記録者氏名	石田 めぐみ 堀町 朝美	記録年月日	平成19年6月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「対象者の有する能力を把握し、充足していない部分を独自の理論、方法論を使い充足していくことで、自立した日常生活を営むことを目的とする。」という理念を作り上げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を全社員が述べられるところには至っていない。</p>	<p>社員全員が述べられるよう浸透させ、実践にむけ取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域相談室という独自のものを作り、配置。地域の方々へ理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>職員が近隣の除雪を手伝ったりする交流がある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入っており、何か行事があれば参加している。		
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域相談室を基盤として、地域の高齢者の暮らしなどの相談を受け、役立てることがないか考え取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己、外部評価においての意義の理解はできている。評価するにあたって、反省点や振り返りの再確認となるため、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に話し合いの場を設け、意見交換をし、それに基づいたサービスを提供できるように心がけている。また、その場においても反省点を出し、評価にあてている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村が行う研修会に参加、分からない疑問点はこちらで判断することなく、市町村に確認するなどして連携を取り、サービスの向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	理解したうえで、支援している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者がスタッフと定期的にミーティングを行い、現状把握し、虐待が起こることのないよう、また未然に防止できるよう注意を払っている。		
4. 理念を实践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者本人、家族と話す機会を作るようにし、訴えられたことに対しての説明は行っている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	なるべく多く利用者とは話しやすい環境づくりに努めるようにしている。訴えられた内容に関しては、意見交換の場にてすぐ開示し、対応できるように話し合っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に報告という形にはしていない。受診、特変事などには細部にわたる報告、他家族連絡が必要な際や来所時には、なるべく本人の状況をお伝えするようにしている。		月1回ペースで文書などにより、本人の状況を家族にはお伝えしていきたいとは考えている。(頻回に来所される家族には口頭で説明も考えている。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約書も記入してある通り、苦情申し立て窓口設置している。受けたご相談内容においては、迅速に対応できるよう心がけている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフと話す機会は設けられている。結果、反映させられることはするようにし、そうでない場合も検討の一つとして、考えている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務表においてはあらかじめ人員必要な日付には多く配置するようにしており、突発時にフォローできるようにもしている。やむを得ない場合においても、家族、利用者に合わせて勤務変更なども、柔軟に行えるようにしている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の面接時には、離職することは利用者へのダメージが大きいため、長期的に働いてもらうことを前提に面接、採用を行っている。またやむを得ず離職する際には、利用者へのダメージが最低限で済むよう、ケアにあたっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修においては、なるべく参加できるよう働きがけをしている。現実問題として、管理者レベルの研修が中心となっており、参加は可能な限りできている。</p>	<p>資格に応じた研修、セミナーなど、幅広くスキルアップの足がけとしたい。参加できる項目を多彩に収集し、多くの職員が各研修に参加できるように考えていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に勉強会やミーティングを行い、ケアの質を向上させるよう働きがけをしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフの声には傾聴しているが、一人一人の訴えをこちらから聞けるような機会は設けられていない。寄せられた声には改善できるよう心がけている。</p>	<p>一人一人の声が聞けるような機会をもうけていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員から寄せられた、職員や施設内の状況を把握することで、職員がより良い環境で働けるよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人面談の際に、状態観察、本人の訴えなどあらゆる視点から情報収集し、それをふまえたうえでのコミュニケーションなどを大事にしている。信頼関係の構築を図れるよう、常に努力している。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前より、家族との情報交換は密にとっており、相談内容把握に努めている。家族、本人の意向に沿った話し合いが出来るよう、こちら側も努めている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>何が今必要なのか、何を求められているのか、話し合いの中から判断し、それらに沿ったサービス提供を心がけている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>業務的な観念にとらわれず、このような施設に抵抗を感じているようであれば、試行外泊も行い、徐々に慣れていただくなどの機会も作っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>人生の先輩でもある高齢者の方々より、スタッフ全員学ぶことも多々あり、日常生活を共にすることで、喜怒哀楽を共感できる環境づくりに励んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状態を定期的にお伝えすると共に、何かあるときには、家族の協力も得られるよう働きかけている。		家族会の開催が不安定なため、今後は定期的に開催していく必要がある。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	必要に応じては、スタッフが利用者と家族の間に入り、本人と家族とのよりよい関係を築いていけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の面会に関しては家族の了解のある方には応じている。(個人情報保護法に基づいて)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている。	職員が利用者の中に入り関わることで、利用者同士の関係が築けるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、家族や利用者定期的に連絡を取り、関係を続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員が本人と面談をし、利用者一人一人の思いを傾聴する場を設けている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時に本人または家族と面談をし、状況によっては自宅に訪問するなどし、これまでの暮らしを把握し、ケアに結びつける配慮をしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>二ヶ月に1回サマリーを作成し、利用者に変化があれば、看護・介護計画の修正を行うと共に、利用者とコミュニケーションを図ることで、暮らしの現状把握をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>作成した看護・介護計画においては、家族に同意や意見をいただき、今後のプランに活かしている。また月に1回、ケアマネージャー、職員と担当者会議を開催し、ケアの向上に努めている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>利用者に変化があったときは新たな計画を作成し、変化がなくとも定期的に計画の見直しを行っている。必要であれば家族と話し合う場を設けるように対処している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアに携わると同時に、都度記録を残し情報共有している。ミーティングでは介護計画を見直すことでよりよいケアを提供できるよう日々努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホーム、グループハウス、デイサービス、ヘルパーステーション、居宅支援事業所、それぞれ事業所を設立、点在させることにより、様々な要望に多機能性を柔軟に活かせるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際にはボランティアの方が来られて、余興を行ってくださったり、地域資源との協働はある。また福祉園の方々が週に二回、施設内の清掃に入っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の必要性に応じて、他のサービスを利用することができるよう体制を設けている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域相談室を筆頭に、連絡、連携を取り合い、相談、検討を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常の状態をスタッフがチェック、ナースもそれに応じて観察、必要に応じて受診考慮。受診時も、医療関係者に日頃の状態わかるよう報告し、的確に診断、処置してもらえるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医での受診、認知症の状況がわかるよう詳細まで報告している。二ヶ月に1回、施設でもスケールをとり認知レベルの確認を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師、准看護師、いずれかは全部署に配置済み。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	受診先の病院と、入院が必要とされた場合の連携が図れるよう、常に情報交換している。入院中の本人の状態の把握、または退院日の予定など、こちらから連絡をとるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本来より高齢の方が多いため、急変時には病院へ搬送となる旨を家族にも入居時にお伝えしている。また病院へも同説明行っている。GHは病院と家族の中間地点で、現在は橋渡しの連絡方法で行っている。(家族からの代理依頼が多い)		家族の都合もあり家族と共に病院を訪れ、今後について話すきっかけがなかなか今までもつかめずにいる。家族にも都合をつけていただき、病院、家族、GHでの話し合いができるよう働きかけは続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>残された時間をいかに快適に過ごしていただけるかを考え、ケアにあたっている。GHのできることを、できないことについてはスタッフ間でも情報共有し、本人が苦痛とならないようできることを精一杯提供している。こちらで対応不可となった場合には病院側にもすぐに対処してもらえるよう連携とっている。</p>		
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>詳細記入したサマリーは必ずつけている。また、自宅へ戻られる時など、気をつけて欲しいことなどの説明、処置的な事が必要な方には、手紙などをつけ、手法など記入したものをお渡ししていた。誰が見ても分かりやすいものを情報としてまとめ、交換、話し合いしていた。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者に対しての対応、声かけひとつから、スタッフ間で注意するよう心がけている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人一人の理解力に応じた対応をしている。こちらからの声かけで、意志決定をするのは本人。希望表出があれば傾聴。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活パターンの把握、またそれに応じなるべく希望に沿えるよう努めてはいるが、個々の都合に合わせ全てを聞き入れ行動できるところまでは至っていない。		入居されている方全員の全ての要望にお答えするのは、現実的に厳しいが、なるべくその欲求が満たされるよう、臨機応変に対応できるようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回、床屋さんに来所してもらっている。美容室希望の方には個別でお連れしている。時と場合によっては、化粧をしたいと訴えられることもあり、お手伝いしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	生理的欲求からか、食事は楽しみの一つとなっている。高齢者の嗜好に沿ったお食事の提供を考えている。片付けや、準備も可能な方にはお手伝いしていただいている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望に応じて楽しみの一つとして規制していない。ただ本人が持つ疾病により、タバコや酒類の量に関しては本人に説明し、規制をかけることもある。状況に応じて対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ誘導を行い、個々の排泄パターンの把握に努め、不快を与えないよう支援している。トイレでの排泄を習慣化できるように考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に火曜、金曜で行っているが、以外にも本人の希望があれば、いつでも入浴は可能であること説明し実施している。他入居者の入眠の妨げとなるような時間には遠慮していただくこともある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不眠のある方には、その原因を追究し、阻害しているものを排除するようにし、快適に入眠していただけるよう援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	レクリエーション、季節によっては散歩など取り入れ、気分転換をはかっている。日常生活においても、出来ることはしていただくよう、常に働きかけは行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方においては、多額ではないがある程度の金銭は所持してもらっている。また買い物ツアーなどでお金を使用したり、施設内設置の自動販売機などでも使用している。		基本的に認知症対応型であり、実際に自己管理できる方が限られており、管理意欲はあるが、実際には出来ない方が少なくないため、その方たちの不満が聞かれることがある。その欲求をいかに緩和できるか考えていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全て訴えに対応は出来ずとも、なるべく危険のない戸外であれば、スタッフ同行のもと出かけられるよう援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>月1回ペースで買い物、外食など行っている。また、季節に応じた季節感のある景色を見に行ったりなど、イベントとして開催している。その際、家族も共に参加の希望があれば、一緒に行かれることもある。</p>		<p>事前にお知らせすることにより、家族参加も増え、本人も喜ばれるのではないかと。あらかじめ、ホーム内には分かりやすくポスターなどでお知らせはしている。来所された家族は見ているが、諸事情のため参加の声がないのが現状である。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>公衆電話の設置もあり、本人がかけるのは自由。外線対応もし、家族からの電話も受けてつないでいる。手紙やはがきを書かれる方もおり、投函している。</p>		<p>ご本人に、季節に応じた絵葉書などをレクで作成してもらい、家族に送付するのもお互いに楽しみになると思うので、今後レクに取り入れていきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでもどなたでも来訪できる。今は個人情報保護があり、家族の許可がない方に関しては、お断りしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会のもと、セミナーなど出席し、その情報をスタッフ間で共有できるよう、勉強会開催、その必要性を理解した上でケアにあたっている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>もとより施錠は行っていない。玄関が道路に面しており、無断外出者による事故を未然に防ぐために、センサー設置している。居室においては、プライバシー保護で鍵はついているも、本人の意思のもとかけている方もいるが、こちらがかけることはない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>24時間の個人の状況は、プライバシーを考慮した上で観察している。必要に応じて安全確保のため、本人合意で行動することもある。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物など基本的に危険性のあるものはこちらで管理することになっているが、個人のできる範囲で果物の皮むきなどをしてもらったり、身近なものとして扱うようにしている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を開催し知識養成することで、いかに未然に事故を予防できるか、万が一の事故、災害時に備え訓練を行なうなどして、スタッフ全員で取り組んでいる。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>勉強会にて、急変時に実際に行う手順、方法など確認している。また、迅速にナースにも伝わるよう、スタッフ間に浸透させている。</p>		<p>いざという時に、全員が速やかに対応するのは難しいと思われ、もう少し「急変時」ではなく、「身近に」ある可能性のあるものとして、スタッフ間に浸透させていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災に対しては防災訓練を行ない、避難経路、入居者の移送など行っている。</p>		<p>水害、地震に対する対策にも取り組んでいきたい。災害に関わるようなことで地域の方と密接に関わるようにしていくことも必要である。</p>



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時、また入居後特変時など、その都度現在の状況とそれに伴い、今後なる可能性のある状況は必ずお伝えし、その場合にどう対応していくかなどの話し合いを家族と行うようにしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日頃からの観察に伴い、少しでも異変があれば見逃さずバイタルチェック。異常あればナースに速やかに報告、迅速な対応に努めている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>大体どのような薬かという自覚はそれぞれあると考えられる。確実に投与できるよう援助している。</p>		<p>薬の内容全てをスタッフが把握できてはいない。処方内容が変わったりした時には、都度連絡している。精神薬投与してる方が多いため、薬の知識をカンファレンスなどで広めていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘になる原因の探求、それに伴い対策を考える。下剤の調整、水分摂取、運動など。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>援助が必要であれば介助。個人で出来るようであれば、声かけなど行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々それぞれの食事、水分摂取量全て記録に残している。減少傾向にあっても、情報により促す工夫も個別に考え行なっている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルスに対してのマニュアル作成し、それらの勉強会開催し、学んだことを活かして実行している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	キッチン周囲の清掃、管理は担当者により毎日行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施錠はせず、いつでも出入りできるような状況になっている。センサーついており、家族や外部のお客様にすぐ対応、挨拶できるようにしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な空間に生活できるよう配慮している。各時期イベントなどを利用し、季節感のあるレク、催し物を考えて提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居される場合は、各全室個室となっているため、プライバシー保護も確立。居間のようなホールもあるため、交流をはかりたいときはそちらを利用されている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際にも説明を行い、本人の大切にされているものなど持ち込みに関しては、火の元関係以外はほぼ制限はない。住み慣れた環境に近い部屋にすることで、本人の精神安定もはかれるため工夫も話し合いにより行っている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>日中は天気の良い日に換気を行うよう努めている。温度調整なども本人と話し合いながら、適温を保つようにしている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>残存能力を活かし、身体機能低下させないよう、体操やレクリエーションを取り入れている。自分で出来ることはしていただき、依存心を高められない所をお手伝いするようスタッフも心がけている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>積極性を大切に出来ることをお手伝いしていただくほか、スタッフも共にサポート行うことにより失敗も少なく、自信につながるよう援助している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏季には花を植えたものを鑑賞したり、散歩がてら花を摘んだり、トマトを収穫したりしている。園芸療法も取り入れている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 理念に基づいた考えをそのまま現場に活かしている。自立支援を促し、未充足な部分を充足し、その方の尊厳を尊重し、その方らしく生活して頂く。また、夏季には園芸療法なども取り入れ、入居者の方が直接土に触れ、植物を育てていく一連の流れを実際に体験していただくという試みも取り入れている。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	旭川高齢者グループホーム ほーぷ 東棟	評価実施年月日	平成19年6月1日
評価実施構成員氏名	前田 鈴木 佐藤洋 佐藤由紀 安井 佐藤久枝		
記録者氏名	石田 めぐみ 堀町 朝美	記録年月日	平成19年6月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「対象者の有する能力を把握し、充足していない部分を独自の理論、方法論を使い充足していくことで、自立した日常生活を営むことを目的とする。」という理念を作り上げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を全社員が述べられるところには至っていない。</p>	<p>社員全員が述べられるよう浸透させ、実践にむけ取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域相談室という独自のものを作り、配置。地域の方々へ理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>職員が近隣の除雪を手伝ったりする交流がある。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入っており、何か行事があれば参加している。		
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域相談室を基盤として、地域の高齢者の暮らしなどの相談を受け、役立てることがないか考え取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己、外部評価においての意義の理解はできている。評価するにあたって、反省点や振り返りの再確認となるため、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に話し合いの場を設け、意見交換をし、それに基づいたサービスを提供できるように心がけている。また、その場においても反省点を出し、評価にあてている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村が行う研修会に参加、分からない疑問点はこちらで判断することなく、市町村に確認するなどして連携を取り、サービスの向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	理解したうえで、支援している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者がスタッフと定期的にミーティングを行い、現状把握し、虐待が起こることのないよう、また未然に防止できるよう注意を払っている。		
4. 理念を实践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者本人、家族と話す機会を作るようにし、訴えられたことに対しての説明は行っている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	なるべく多く利用者とは話しやすい環境づくりに努めるようにしている。訴えられた内容に関しては、意見交換の場にてすぐ開示し、対応できるように話し合っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に報告という形にはしていない。受診、特変事などには細部にわたる報告、他家族連絡が必要な際や来所時には、なるべく本人の状況をお伝えするようにしている。		月1回ペースで文書などにより、本人の状況を家族にはお伝えしていきたいとは考えている。(頻回に来所される家族には口頭で説明も考えている。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約書も記入してある通り、苦情申し立て窓口設置している。受けたご相談内容においては、迅速に対応できるよう心がけている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフと話す機会は設けられている。結果、反映させられることはするようにし、そうでない場合も検討の一つとして、考えている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務表においてはあらかじめ人員必要な日付には多く配置するようにしており、突発時にフォローできるようにもしている。やむを得ない場合においても、家族、利用者に合わせて勤務変更なども、柔軟に行えるようにしている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の面接時には、離職することは利用者へのダメージが大きいため、長期的に働いてもらうことを前提に面接、採用を行っている。またやむを得ず離職する際には、利用者へのダメージが最低限で済むよう、ケアにあたっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修においては、なるべく参加できるよう働きかけをしている。現実問題として、管理者レベルの研修が中心となっており、参加は可能な限りできている。</p>	<p>資格に応じた研修、セミナーなど、幅広くスキルアップの足がけとしたい。参加できる項目を多彩に収集し、多くの職員が各研修に参加できるように考えていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に勉強会やミーティングを行い、ケアの質を向上させるよう働きかけをしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフの声には傾聴しているが、一人一人の訴えをこちらから聞けるような機会は設けられていない。寄せられた声には改善できるよう心がけている。</p>	<p>一人一人の声が聞けるような機会をもうけていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員から寄せられた、職員や施設内の状況を把握することで、職員がより良い環境で働けるよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人面談の際に、状態観察、本人の訴えなどあらゆる視点から情報収集し、それをふまえたうえでのコミュニケーションなどを大事にしている。信頼関係の構築を図れるよう、常に努力している。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前より、家族との情報交換は密にとっており、相談内容把握に努めている。家族、本人の意向に沿った話し合いが出来るよう、こちら側も努めている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>何が今必要なのか、何を求められているのか、話し合いの中から判断し、それらに沿ったサービス提供を心がけている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>業務的な観念にとらわれず、このような施設に抵抗を感じているようであれば、試行外泊も行い、徐々に慣れていただくなどの機会も作っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>人生の先輩でもある高齢者の方々より、スタッフ全員学ぶことも多々あり、日常生活を共にすることで、喜怒哀楽を共感できる環境づくりに励んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状態を定期的にお伝えすると共に、何かあるときには、家族の協力も得られるよう働きかけている。		家族会の開催が不安定なため、今後は定期的に開催していく必要がある。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	必要に応じては、スタッフが利用者と家族の間に入り、本人と家族とのよりよい関係を築いていけるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の面会に関しては家族の了解のある方には応じている。(個人情報保護法に基づいて)		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている。	職員が利用者の中に入り関わることで、利用者同士の関係が築けるよう努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、家族や利用者定期的に連絡を取り、関係を続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員が本人と面談をし、利用者一人一人の思いを傾聴する場を設けている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時に本人または家族と面談をし、状況によっては自宅に訪問するなどし、これまでの暮らしを把握し、ケアに結びつける配慮をしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>二ヶ月に1回サマリーを作成し、利用者に変化があれば、看護・介護計画の修正を行うと共に、利用者とコミュニケーションを図ることで、暮らしの現状把握をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>作成した看護・介護計画においては、家族に同意や意見をいただき、今後のプランに活かしている。また月に1回、ケアマネージャー、職員と担当者会議を開催し、ケアの向上に努めている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>利用者に変化があったときは新たな計画を作成し、変化がなくとも定期的に計画の見直しを行っている。必要であれば家族と話し合う場を設けるように対処している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアに携わると同時に、都度記録を残し情報共有している。ミーティングでは介護計画を見直すことでよりよいケアを提供できるよう日々努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホーム、グループハウス、デイサービス、ヘルパーステーション、居宅支援事業所、それぞれ事業所を設立、点在させることにより、様々な要望に多機能性を柔軟に活かせるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際にはボランティアの方が来られて、余興を行ってくださったり、地域資源との協働はある。また福祉園の方々が週に二回、施設内の清掃に入っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の必要性に応じて、他のサービスを利用することができるよう体制を設けている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域相談室を筆頭に、連絡、連携を取り合い、相談、検討を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常の状態をスタッフがチェック、ナースもそれに応じて観察、必要に応じて受診考慮。受診時も、医療関係者に日頃の状態わかるよう報告し、的確に診断、処置してもらえるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医での受診、認知症の状況がわかるよう詳細まで報告している。二ヶ月に1回、施設でもスケールをとり認知レベルの確認を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師、准看護師、いずれかは全部署に配置済み。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	受診先の病院と、入院が必要とされた場合の連携が図れるよう、常に情報交換している。入院中の本人の状態の把握、または退院日の予定など、こちらから連絡をとるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本来より高齢の方が多いため、急変時には病院へ搬送となる旨を家族にも入居時にお伝えしている。また病院へも同説明行っている。GHは病院と家族の中間地点で、現在は橋渡しの連絡方法で行っている。(家族からの代理依頼が多い)		家族の都合もあり家族と共に病院を訪れ、今後について話すきっかけがなかなか今までもつかめずにいる。家族にも都合をつけていただき、病院、家族、GHでの話し合いができるよう働きかけは続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>残された時間をいかに快適に過ごしていただけるかを考え、ケアにあたっている。GHのできることを、できないことについてはスタッフ間でも情報共有し、本人が苦痛とならないようできることを精一杯提供している。こちらで対応不可となった場合には病院側にもすぐに対処してもらえるよう連携とっている。</p>		
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>詳細記入したサマリーは必ずつけている。また、自宅へ戻られる時など、気をつけて欲しいことなどの説明、処置的な事が必要な方には、手紙などを付け、手法など記入したものをお渡ししていた。誰が見ても分かりやすいものを情報としてまとめ、交換、話し合いしていた。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者に対しての対応、声かけひとつから、スタッフ間で注意するよう心がけている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人一人の理解力に応じた対応をしている。こちらからの声かけで、意志決定するのは本人。希望表出があれば傾聴。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活パターンの把握、またそれに応じなるべく希望に沿えるよう努めてはいるが、個々の都合に合わせ全てを聞き入れ行動できるところまでは至っていない。		入居されている方全員の全ての要望にお答えするのは、現実的に厳しいが、なるべくその欲求が満たされるよう、臨機応変に対応できるようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回、床屋さんに来所してもらっている。美容室希望の方には個別でお連れしている。時と場合によっては、化粧をしたいと訴えられることもあり、お手伝いしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	生理的欲求からか、食事は楽しみの一つとなっている。高齢者の嗜好に沿ったお食事の提供を考えている。片付けや、準備も可能な方にはお手伝いしていただいている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望に応じて楽しみの一つとして規制していない。ただ本人が持つ疾病により、タバコや酒類の量に関しては本人に説明し、規制をかけることもある。状況に応じて対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ誘導を行い、個々の排泄パターンの把握に努め、不快を与えないよう支援している。トイレでの排泄を習慣化できるように考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に火曜、金曜で行っているが、以外にも本人の希望があれば、いつでも入浴は可能であること説明し実施している。他入居者の入眠の妨げとなるような時間には遠慮していただくこともある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不眠のある方には、その原因を追究し、阻害しているものを排除するようにし、快適に入眠していただけるよう援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	レクリエーション、季節によっては散歩など取り入れ、気分転換をはかっている。日常生活においても、出来ることはしていただくよう、常に働きかけは行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方においては、多額ではないがある程度の金銭は所持してもらっている。また買い物ツアーなどでお金を使用したり、施設内設置の自動販売機などでも使用している。		基本的に認知症対応型であり、実際に自己管理できる方が限られており、管理意欲はあるが、実際には出来ない方が少なくないため、その方たちの不満が聞かれることがある。その欲求をいかに緩和できるか考えていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全て訴えに対応は出来ずとも、なるべく危険のない戸外であれば、スタッフ同行のもと出かけられるよう援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>月1回ペースで買い物、外食など行っている。また、季節に応じた季節感のある景色を見に行ったりなど、イベントとして開催している。その際、家族も共に参加の希望があれば、一緒に行かれることもある。</p>		<p>事前にお知らせすることにより、家族参加も増え、本人も喜ばれるのではないかと。あらかじめ、ホーム内には分かりやすくポスターなどでお知らせはしている。来所された家族は見ているが、諸事情のため参加の声がないのが現状である。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>公衆電話の設置もあり、本人がかけるのは自由。外線対応もし、家族からの電話も受けてつないでいる。手紙やはがきを書かれる方もおり、投函している。</p>		<p>ご本人に、季節に応じた絵葉書などをレクで作成してもらい、家族に送付するのもお互いに楽しみになると思うので、今後レクに取り入れていきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでもどなたでも来訪できる。今は個人情報保護があり、家族の許可がない方に関しては、お断りしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会のもと、セミナーなど出席し、その情報をスタッフ間で共有できるよう、勉強会開催、その必要性を理解した上でケアにあたっている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>もとより施錠は行っていない。玄関が道路に面しており、無断外出者による事故を未然に防ぐために、センサー設置している。居室においては、プライバシー保護で鍵はついているも、本人の意思のもとにかけている方もいるが、こちらがかけることはない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>24時間の個人の状況は、プライバシーを考慮した上で観察している。必要に応じて安全確保のため、本人合意で行動することもある。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物など基本的に危険性のあるものはこちらで管理することになっているが、個人のできる範囲で果物の皮むきなどをしてもらったり、身近なものとして扱うようにしている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を開催し知識養成することで、いかに未然に事故を予防できるか、万が一の事故、災害時に備え訓練を行なうなどして、スタッフ全員で取り組んでいる。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>勉強会にて、急変時に実際に行う手順、方法など確認している。また、迅速にナースにも伝わるよう、スタッフ間に浸透させている。</p>		<p>いざという時に、全員が速やかに対応するのは難しいと思われ、もう少し「急変時」ではなく、「身近に」ある可能性のあるものとして、スタッフ間に浸透させていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災に対しては防災訓練を行ない、避難経路、入居者の移送など行っている。</p>		<p>水害、地震に対する対策にも取り組んでいきたい。災害に関わるようなことで地域の方と密接に関わるようにしていくことも必要である。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時、また入居後特変時など、その都度現在の状況とそれに伴い、今後なる可能性のある状況は必ずお伝えし、その場合にどう対応していくかなどの話し合いを家族と行うようにしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日頃からの観察に伴い、少しでも異変があれば見逃さずバイタルチェック。異常あればナースに速やかに報告、迅速な対応に努めている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>大体どのような薬かという自覚はそれぞれあると考えられる。確実に投与できるよう援助している。</p>		<p>薬の内容全てをスタッフが把握できてはいない。処方内容が変わったりした時には、都度連絡している。精神薬投与してる方が多いため、薬の知識をカンファレンスなどで広めていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘になる原因の探求、それに伴い対策を考える。下剤の調整、水分摂取、運動など。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>援助が必要であれば介助。個人で出来るようであれば、声かけなど行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々それぞれの食事、水分摂取量全て記録に残している。減少傾向にあっても、情報により促す工夫も個別に考え行なっている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザ、ノロウイルスに対してのマニュアル作成し、それらの勉強会開催し、学んだことを活かして実行している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>キッチン周囲の清掃、管理は担当者により毎日行われている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>施錠はせず、いつでも出入りできるような状況になっている。センサーついており、家族や外部のお客様にすぐ対応、挨拶できるようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>快適な空間に生活できるよう配慮している。各時期イベントなどを利用し、季節感のあるレク、催し物を考えて提供している。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居される場合は、各全室個室となっているため、プライバシー保護も確立。居間のようなホールもあるため、交流をはかりたいときはそちらを利用されている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際にも説明を行い、本人の大切にされているものなど持ち込みに関しては、火の元関係以外はほぼ制限はない。住み慣れた環境に近い部屋にすることで、本人の精神安定もはかれるため工夫も話し合いにより行っている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中は天気の良い日に換気を行うよう努めている。温度調整なども本人と話し合いながら、適温を保つようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存能力を活かし、身体機能低下させないよう、体操やレクリエーションを取り入れている。自分で出来ることはしていただき、依存心を高めないようできない所をお手伝いするようスタッフも心がけている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	積極性を大切に出来ることをお手伝いしていただくほか、スタッフも共にサポート行うことにより失敗も少なく、自信につながるよう援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏季には花を植えたものを鑑賞したり、散歩がてら花を摘んだり、トマトを収穫したりしている。園芸療法も取り入れている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○ 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 理念に基づいた考えをそのまま現場に活かしている。自立支援を促し、未充足な部分を充足し、その方の尊厳を尊重し、その方らしく生活して頂く。また、夏季には園芸療法なども取り入れ、入居者の方が直接土に触れ、植物を育てていく一連の流れを実際に体験していただくという試みも取り入れている。